



平成23年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月10日

上場取引所 大

上場会社名 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社

コード番号 7707 URL <http://www.pss.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田島 秀二

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役業務本部長 (氏名) 秋本 淳

TEL 047-303-4800

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年6月期第2四半期の連結業績(平成22年7月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年6月期第2四半期	1,529	△43.9	△153	—	△162	—	△158	—
22年6月期第2四半期	2,724	45.3	429	183.4	409	389.4	363	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年6月期第2四半期	△1,738.79	—
22年6月期第2四半期	8,495.09	—

(注)平成22年5月14日開催の取締役会決議により、平成22年7月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行いました。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年6月期第2四半期	4,681	3,059	61.7	31,639.47
22年6月期	5,238	3,370	60.7	69,741.46

(参考) 自己資本 23年6月期第2四半期 2,887百万円 22年6月期 3,182百万円

(注)平成22年5月14日開催の取締役会決議により、平成22年7月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行いました。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年6月期	—	0.00	—	3,000.00	3,000.00
23年6月期	—	0.00	—	—	—
23年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

(注)平成22年5月14日開催の取締役会決議により、平成22年7月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行いました。

3. 平成23年6月期の連結業績予想(平成22年7月1日～平成23年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,200	△43.2	△260	—	△280	—	△260	—	△2,849.00

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他 (詳細は、【添付資料】P.5「その他」をご覧ください。)

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年6月期2Q 91,260株 22年6月期 45,630株

② 期末自己株式数 23年6月期2Q 一株 22年6月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年6月期2Q 91,260株 22年6月期2Q 42,840株

(注)平成22年5月14日開催の取締役会決議により、平成22年7月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行いました。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)5ページ「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」ならびに平成23年2月4日付で発表いたしました「業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. その他の情報	5
(1) 重要な子会社の異動の概要	5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	5
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	5
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国の経済成長や政府による経済対策に牽引され、回復基調を維持したものの、急激な円高や依然として厳しい雇用情勢、欧州財政危機など、先行きに関する不透明感は増大してまいりました。

このような状況の中、当社グループは、バイオ関連業界において、遺伝子やタンパク質の解析や診断に利用される自動化装置の製造販売、それら装置に使用される試薬や反応容器などの消耗品類の製造販売に注力してまいりました。

当社グループの主力製品は、血液や組織細胞から遺伝子やタンパク質を抽出・精製するための自動化装置（DNA自動抽出装置）であり、当社の特許技術を利用したオリジナル製品群であります。これら製品は、大手企業へのOEM販売（相手先ブランドによる販売）を中心にワールドワイドに展開しております。主要なOEM先は、ロシュグループ、キアゲングループ、三菱化学メディエンス㈱、ライフテクノロジーズ社、ベックマン・コールター社、ナノストリング社などとなっております。

また、近年はOEMばかりではなく、自社ブランドによる販売展開にも注力しております。

前連結会計年度は、世界的な新型インフルエンザの流行や警察における科学捜査の進展などにより、当社グループの製品需要も盛り上がりを見せ、1年を通じてたいへん好調な業績を確保いたしました。しかしながら、新型インフルエンザの流行が終了する過程において、出荷過多となった装置及びプラスチック消耗品が、流通段階で過剰在庫となってしまう、当連結会計年度に入り、販売に苦戦する状況が続いております。特に、主力OEM先であるロシュグループ及びキアゲングループにおいて顕著な影響がでています。

その結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高1,529百万円（前年同期比43.9%減）、営業損失153百万円（前年同期は営業利益429百万円）、経常損失162百万円（前年同期は経常利益409百万円）、四半期純損失158百万円（前年同期は四半期純利益363百万円）となりました。

取引先別の販売状況は、下表のとおりであります。

	前第2四半期 連結累計期間		当第2四半期 連結累計期間		対前年同期 増減率	(参考) 前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
ロシュグループ	1,487	54.6	432	28.3	70.9	2,960	52.5
キアゲングループ	789	29.0	394	25.8	50.0	1,278	22.7
その他OEM先	289	10.6	519	33.9	79.3	1,072	19.0
自社販売先	157	5.8	183	12.0	16.1	326	5.8
合計	2,724	100.0	1,529	100.0	43.9	5,637	100.0

ロシュグループ及びキアゲングループ向け販売は、前年同期は、新型インフルエンザに関する遺伝子検査の需要が盛り上がり、大幅な売上増加がございましたが、当第2四半期連結累計期間は、その反動から、大きく売上高が減少いたしました。

その他OEM先に関しては、米国OEM先3社及び三菱化学メディエンス㈱への販売に努め、前年同期比で大きく増収を確保いたしました。

自社販売に関しましては、エピジェネティクス解析の前処理や次世代型シーケンサーの前処理など、当社装置の応用範囲を広げる展開に注力し、前年同期比で大きく増収を確保いたしました。

製品区分別の売上高は、下表のとおりであります。

	前第2四半期 連結累計期間		当第2四半期 連結累計期間		対前年同期 増減率	(参考) 前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
DNA自動抽出装置等	1,755	64.4	978	64.0	44.3	3,458	61.3
その他理化学機器	11	0.4	38	2.5	228.3	28	0.5
その他製品	248	9.1	202	13.2	18.6	551	9.8
商品(プラスチック消耗品)	709	26.0	310	20.3	56.2	1,598	28.4
合計	2,724	100.0	1,529	100.0	43.9	5,637	100.0

DNA自動抽出装置等

当区分は、当社の特許技術を利用した自動化装置の区分であり、ロシュグループやキアゲングループ等に供給しているDNA自動抽出装置の他、三菱化学メディエンス㈱に供給している免疫化学発光測定装置や自社ブランド展開しているタンパク質自動精製装置などがあります。

当第2四半期連結累計期間は、前年同期の新型インフルエンザの影響による大量出荷の反動により、ロシュグループ及びキアゲングループ向けの出荷が大きく落ち込んだことから、売上高978百万円(前年同期比44.3%減)となりました。

四半期毎の販売推移は、下表のとおりであります。販売単価は、機種により価格帯が異なるため、その影響から変動しているものであります。

	前連結会計年度				当連結会計年度	
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期
販売台数 (台)	298	435	643	197	316	169
販売金額 (千円)	691,500	1,063,716	1,360,228	343,436	623,144	355,111
販売単価 (千円)	2,320	2,445	2,115	1,743	1,971	2,101

その他理化学機器

当区分は、研究施設や検査センターなどで利用される特注自動化機器、各省庁やその外郭団体などからの受託研究開発事業、また、顧客からの要望による新機種開発などの開発売上も区分されています。

当第2四半期連結累計期間は、売上高38百万円(前年同期比228.3%増)となりました。当区分の売上高は、特注システム等の受注状況により大きく変動いたします。

その他製品

当区分は、装置メンテナンスやスペアパーツ(交換部品)販売、自社販売のDNA自動抽出装置に使用される遺伝子やタンパク質の抽出・精製の試薬、ソフトウェアの受託開発などの区分であります。

当第2四半期連結累計期間は、売上高202百万円(前年同期比18.6%減)となりました。ロシュグループ及びキアゲングループ向けの販売が、前年同期比で大きく落ち込みましたが、当区分の売上高は、基本的には装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

商品(プラスチック消耗品)

当区分は、装置の使用に伴い消費されるチップやカートリッジなど、当社装置の専用プラスチック消耗品の区分であります。

当第2四半期連結累計期間は、売上高310百万円(前年同期比56.2%減)となりました。ロシュグループ及びキアゲングループ向けの販売が、前年同期比で大きく落ち込みましたが、当区分の売上高は、基本的には装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

日本

当第2四半期連結累計期間の日本の売上高は1,274百万円（前年同期比41.5%減）となり、その内、外部顧客に対する売上高は270百万円（前年同期比37.3%増）となりました。ロシュグループ及びキアゲングループ向けの販売が低調であったため、ドイツとのセグメント間の売上が大きく減少いたしました。三菱化学メディエンス㈱を中心に国内販売に努め、外部顧客に対する売上は増加いたしました。一方で、営業費用は1,382百万円（前年同期比22.3%減）となり、営業損失108百万円（前年同期は営業利益399百万円）となりました。

米国

当第2四半期連結累計期間の米国の売上高は406百万円（前年同期比82.1%増）となりました。米国OEM先への販売が好調に推移したことから、大きく売上が伸びました。一方で、営業費用は387百万円（前年同期比65.0%増）となり、営業利益18百万円（前年同期は営業損失11百万円）となりました。

ドイツ

当第2四半期連結累計期間のドイツの売上高は855百万円（前年同期比63.0%減）となりました。ロシュグループ及びキアゲングループ向けの販売が大きく落ち込んだことによるものであります。一方で、営業費用は842百万円（前年同期比61.4%減）となり、営業利益12百万円（前年同期比90.3%減）となりました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

（a）資産

当第2四半期連結累計期間末の資産合計は4,681百万円となり、前連結会計年度末の5,238百万円に比べ557百万円の減少となりました。

商品及び製品が25百万円増加した一方、現金及び預金が350百万円減少、受取手形及び売掛金が240百万円減少したことなどから、流動資産全体では628百万円の減少となりました。

また、金型の設備投資などにより有形固定資産が50百万円増加し、固定資産全体では71百万円の増加となりました。

（b）負債

当第2四半期連結累計期間末の負債合計は1,621百万円となり、前連結会計年度末の1,868百万円に比べ246百万円の減少となりました。

1年内返済予定の長期借入金が39百万円増加した一方、買掛金が82百万円減少、1年内償還予定の社債が150百万円減少、その他流動負債が134百万円減少したことなどから、流動負債全体では325百万円の減少となりました。

また、長期借入金が311百万円増加した一方、1年内償還予定の社債への振替により社債が200百万円減少、繰延税金負債が31百万円減少したことなどから、固定負債全体では79百万円の増加となりました。

（c）純資産

当第2四半期連結累計期間末の純資産合計は3,059百万円となり、前連結会計年度末の3,370百万円に比べ310百万円の減少となりました。

配当金の支払い及び四半期純損失の発生により利益剰余金が295百万円減少した他、少数株主持分が15百万円の減少となりました。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末の連結ベースの現金及び預金同等物（以下「資金」という。）は2,285百万円となり、前連結会計年度末の2,636百万円に比べ350百万円の減少となりました。下記(a)から(c)におけるキャッシュ・フローにより349百万円減少した他、資金に係る換算差額により1百万円減少したことによるものであります。

（a）営業活動によるキャッシュ・フロー

減価償却費78百万円、売上債権の減少243百万円などによる資金の増加がありましたが、税金等調整前四半期純損失の発生159百万円、たな卸資産の増加53百万円、仕入債務の減少83百万円、未払金など其他資産の減少64百万円、法人税等の支払額43百万円などによる資金の減少があり、営業活動によるキャッシュ・フローとしては85百万円の減少（前年同期は2百万円の増加）となりました。

(b) 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の売却による収入2百万円による資金の増加がありましたが、有形固定資産の取得による支出126百万円、無形固定資産の取得による支出5百万円などによる資金の減少があり、投資活動によるキャッシュ・フローとしては127百万円の減少（前年同期は284百万円の減少）となりました。

(c) 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入れによる収入500百万円による資金の増加がありましたが、長期借入金の返済による支出148百万円、社債の償還による支出350百万円、配当金の支払額132百万円などによる資金の減少があり、財務活動によるキャッシュ・フローは136百万円の減少（前年同期は247百万円の増加）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年2月4日発表の「業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ」に記載のとおり、通期見通しは下記のとおりであります。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
当連結会計年度予想	3,200	260	280	260
(参考)前連結会計年度	5,637	718	653	549

前連結会計年度においては、世界的な新型インフルエンザの流行により、遺伝子検査の需要が急速に高まったことから、当社のDNA自動抽出装置は大きく売上伸長いたしました。同装置の利用に伴い消費されるプラスチック消耗品も同様でした。

しかしながら、新型インフルエンザの流行が終了する過程において、出荷過多となった装置及びプラスチック消耗品が、流通段階で過剰在庫となってしまう、当連結会計年度は、販売に苦戦する状況が続いております。特に、主力OEM先であるロシュグループ及びキアゲングループに顕著な影響が出ておりますが、現在の受注状況から判断すると、この第2四半期（10～12月）を底に、売上は回復していくものと予想しております。

業績回復の兆しはあるものの、結果として、当連結会計年度は赤字見通しとなってしまいました。しかしながら、これは、前連結会計年度の業績急拡大の反動が大きく影響したものであり、主力OEM先2グループとの取引事情による一過性のものであると考えております。

一方で、ライフテクノロジーズ社やベックマン・コールター社など、その他のOEM先への販売は順調に拡大しており、また、米国IntegenX社との取引開始（平成23年1月26日付プレスリリース参照）をはじめ、その他の新しい商談も進んでおります。したがって、当社装置に関する需要そのものは拡大基調にあると思われ、今後の中長期的な事業拡大は、十分に期待できるものと考えております。

なお、通期の業績予想における下期の為替予想は、1ユーロ＝110円、1ドル＝80円にて算定しております。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

簡便な会計処理

(たな卸資産の評価方法)

たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

(固定資産の減価償却費の算定方法)

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,285,456	2,636,442
受取手形及び売掛金	418,656	658,796
商品及び製品	776,595	750,947
仕掛品	29,793	14,182
原材料及び貯蔵品	11,031	13,625
繰延税金資産	-	9,000
その他	92,636	162,520
貸倒引当金	967	3,969
流動資産合計	3,613,203	4,241,546
固定資産		
有形固定資産	803,871	752,978
無形固定資産	8,141	4,095
投資その他の資産	256,256	239,910
固定資産合計	1,068,268	996,984
資産合計	4,681,472	5,238,531
負債の部		
流動負債		
買掛金	149,115	231,554
1年内償還予定の社債	200,000	350,000
1年内返済予定の長期借入金	259,180	219,706
リース債務	10,016	8,986
未払法人税等	74,927	83,942
役員賞与引当金	4,313	-
賞与引当金	10,943	5,666
その他	120,665	254,766
流動負債合計	829,161	1,154,623
固定負債		
社債	-	200,000
長期借入金	738,359	426,781
リース債務	16,547	16,088
繰延税金負債	35,993	67,797
負ののれん	1,338	2,676
その他	446	166
固定負債合計	792,685	713,509
負債合計	1,621,846	1,868,132

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,217,194	2,217,194
資本剰余金	251,999	251,999
利益剰余金	548,294	843,866
株主資本合計	3,017,488	3,313,060
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	130,070	130,757
評価・換算差額等合計	130,070	130,757
新株予約権	1,544	1,544
少数株主持分	170,663	186,551
純資産合計	3,059,625	3,370,398
負債純資産合計	4,681,472	5,238,531

(2) 四半期連結損益計算書
(第 2 四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成21年 7 月 1 日 至 平成21年12月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成22年 7 月 1 日 至 平成22年12月31日)
売上高	2,724,881	1,529,535
売上原価	1,647,104	986,291
売上総利益	1,077,776	543,244
販売費及び一般管理費	648,588	697,083
営業利益又は営業損失 ()	429,187	153,839
営業外収益		
受取利息	1,819	628
持分法による投資利益	6,104	7,466
負ののれん償却額	1,606	1,606
助成金収入	-	14,091
その他	2,757	2,520
営業外収益合計	12,287	26,313
営業外費用		
支払利息	9,264	9,682
為替差損	18,355	25,276
新株予約権発行費	4,373	-
その他	278	441
営業外費用合計	32,271	35,400
経常利益又は経常損失 ()	409,204	162,926
特別利益		
固定資産売却益	4,226	628
貸倒引当金戻入額	-	3,105
その他	-	11
特別利益合計	4,226	3,746
特別損失		
固定資産除却損	7	42
投資有価証券評価損	29,641	-
特別損失合計	29,649	42
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失 ()	383,781	159,223
法人税、住民税及び事業税	63,636	34,747
法人税等調整額	9,233	19,400
法人税等合計	54,402	15,346
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失 ()	329,379	174,569
少数株主損失 ()	34,550	15,888
四半期純利益又は四半期純損失 ()	363,929	158,681

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	383,781	159,223
減価償却費	53,231	78,356
のれん償却額	1,338	1,338
引当金の増減額(は減少)	15,565	6,816
受取利息及び受取配当金	1,819	628
支払利息	9,264	9,682
新株予約権発行費	4,373	-
持分法による投資損益(は益)	6,104	7,466
固定資産売却損益(は益)	4,226	628
固定資産除却損	7	42
投資有価証券評価損益(は益)	29,641	-
売上債権の増減額(は増加)	467,956	243,230
たな卸資産の増減額(は増加)	169,503	53,723
仕入債務の増減額(は減少)	169,554	83,402
その他	31,895	64,265
小計	46,366	32,548
利息及び配当金の受取額	1,835	628
利息の支払額	8,857	9,865
法人税等の支払額	37,207	43,786
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,137	85,571
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(は増加)	50,080	-
有形固定資産の取得による支出	54,854	126,058
有形固定資産の売却による収入	4,653	2,856
無形固定資産の取得による支出	-	5,000
投資有価証券の取得による支出	184,571	-
その他	-	600
投資活動によるキャッシュ・フロー	284,853	127,601
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	300,000	500,000
長期借入金の返済による支出	152,967	148,948
社債の償還による支出	-	350,000
リース債務の返済による支出	-	4,640
配当金の支払額	-	132,959
少数株主からの払込みによる収入	100,000	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	247,033	136,547
現金及び現金同等物に係る換算差額	19,627	1,266
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	55,310	350,986
現金及び現金同等物の期首残高	1,952,556	2,636,442
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,897,246	2,285,455

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間(自平成21年7月1日至平成21年12月31日)

バイオ関連事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高の合計及び営業利益の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

〔所在地別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間(自平成21年7月1日至平成21年12月31日)

	日本 (千円)	米国 (千円)	ドイツ (千円)	計 (千円)	消去又は全 社(千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	197,009	219,827	2,308,044	2,724,881	-	2,724,881
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,982,208	3,210	2,045	1,987,463	(1,987,463)	-
計	2,179,217	223,037	2,310,089	4,712,344	(1,987,463)	2,724,881
営業利益又は営業損失()	399,209	11,979	129,043	516,274	(87,087)	429,187

(注) 地域は、国毎に区分しております。

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間(自平成21年7月1日至平成21年12月31日)

	ドイツ	スイス	米国	その他	計
海外売上高(千円)	1,593,402	677,693	209,406	60,387	2,540,890
連結売上高(千円)					2,724,881
連結売上高に占める海外 売上高の割合(%)	58.5	24.8	7.7	2.2	93.2

(注) 1. 地域は、国毎に区分しております。

2. その他の区分に含まれる国は、英国、ノルウェー、スペイン、フランス、スウェーデン、カナダ等であり
ます。

〔セグメント情報〕

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主に日本において主力製品であるDNA自動抽出装置等の生産を行い、海外現地法人を通じて、世界各国に製品を提供しております。各々の現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、それぞれの地域特性に応じた包括的な戦略を立案し、独立性をもち事業活動を展開しております。

したがって、当社グループの報告セグメントは販売体制を基礎とした所在地別のセグメントから構成されており、「日本」、「米国」及び「ドイツ」の3つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自平成22年7月1日至平成22年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	米国	ドイツ	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	270,591	405,793	853,151	1,529,535	-	1,529,535
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,003,572	390	1,995	1,005,958	1,005,958	-
計	1,274,163	406,183	855,146	2,535,494	1,005,958	1,529,535
セグメント利益又はセグメント損失()	108,450	18,418	12,553	77,478	76,360	153,839

(注)1. セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 76,360千円には、セグメント間取引消去5,201千円及び、配賦不能営業費用 81,561千円が含まれており、その主なものは、親会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失()と調整を行っております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。